

1 黒星病について

(1) 落葉からの子う胞子の飛散

モニタリング調査（人為的に感染落葉を敷き詰め、子う胞子の飛散量・時期を調査）における3月15日～5月15日の落葉からの子う胞子累積補足数は、28個/cm²（前年128個/cm²、平年38個/cm²）と少ない状況でした。

(2) 果そうの発病率

表1のとおり、5月中旬における果そうの発病率は、前年に比べ少なく、ほぼ平年並みです。ただし、一部園地では果実や葉での発病が多く見られており、今後とも注意が必要です。

表1 年次別の5月中旬の黒星病発病果そう率(%) 令和6年調査日：5月15日

品種	R6	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	平年
幸水	2.7	34.8	19.1	2.4	0.3	0.8	7.4	3.1	5.9	3.3
豊水	1.0	18.6	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	12.1	5.9	4.6
あきづき	1.0	8.3	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	2.5	0.0	1.1
新高	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	1.1	0.4	0.5

※H27（多発年）は6月から調査を実施

(3) 今後の対策

①基本防除の強化・徹底（十分な散布量、丁寧な散布）

- ・防除計画に準じ、効果の高い薬剤を適正な防除間隔で散布してください。
- ・降雨前散布を徹底するとともに、SSは「低圧、低速、全列走行」、黒星病の発生が比較的多い園地外周部等の補正散布を徹底し、散布ムラを極力無くすよう努めてください。

②耕種の防除の徹底

- ・芽基部病斑、罹病果実、葉は見つけ次第摘み取り、園外に持ち出して処分してください。
- ・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤到達性が悪くなり、黒星病に感染しやすくなることから、摘果作業と並行して「芽かき」を実施してください。
- ・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限（予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど）にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。

2 カメムシ類について

- ・5月2半旬以降、カメムシ類の発生が多く、一部園地への飛来が確認されています。
- ・今後、気温が高い状態が続くと予測されており、カメムシ類の活動が活発となり園地への飛来が早まる可能性があります。
- ・カメムシ被害の常発園や、カメムシ類の飛来、果実の吸汁被害が見られる園地では、アクタラ顆粒水溶剤による特別防除を実施してください（詳細は裏面参照）。

3 仕上げ摘果作業について

- ・仕上げ摘果は、表2の着果量基準を参考に、満開60日後（6月16日）頃を目安に終了するよう作業を進めてください。
- ・なお、黒星病の罹病果は確実に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

表2 仕上げ摘果時の着果量（目安）

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり（100～120cm）	1樹当たりの着果量（3間植の場合）
幸水	10～11果	5～6個	290～320果/樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果/樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果/樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果/樹

4 これからの防除について

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
10	5月25 ～27日	ベルコートフロアブル アプロードフロアブル 1,500倍 1,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病、うどんこ病 カイガラムシ類幼虫	
11	6月4 ～6日	オキシラン水和剤 ファルコンフロアブル トランスフォームフロアブル 600倍 6,000倍 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類 カイガラムシ類、アブラムシ類	
12	6月14 ～16日	キャプレート水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 600倍 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、カメムシ類、 コナカイガラムシ類	
13	6月24 ～26日	オキシラン水和剤 サムコルフロアブル10 600倍 5,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 シクイムシ類、ハマキムシ類、 ケムシ類	
14	6月29日 ～7月1日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400 リットル	ハダニ類、ニセナシバダニ	
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう					

<特別防除：カメムシ類対策> ※対象園地のみ

- ・カメムシ被害の常発園や、カメムシ類の飛来、果実の吸汁被害が見られる園地では、10回目と11回目の間にアクタラ顆粒水溶剤 2,000倍（収穫前日まで、3回以内）を単剤で散布してください。
- ・ただし、薬害防止のため、10回目、11回目の防除日と3日以上間隔を空けてください。
- ・9回目の防除でアクタラ顆粒水溶剤を加用した園地では、散布の必要はありません。

※日付はあくまで目安です。降雨や風が強いと予想される場合は、前倒して散布するなど調整してください。

※ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。

5 新梢管理について

- ・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤到達性が低く、黒星病が感染しやすくなります。摘果作業と並行して、図1のとおり「芽かき」を実施してください。



図1 芽かき作業（左：芽かき前 右：芽かき後）

- ・側枝は先端付近の新梢1～2本を残し、それ以外は摘心してください。また、予備枝は先端の新梢1本を残し、残りはすべて摘心してください。
- ・樹勢の低下した樹では、芽かき、摘心を極力控え、樹勢回復に努めてください。
- ・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限（予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど）にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。